

ザンビア国別研修「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成 における日本の経験」

Japanese Experience in Achieving Universal Health Coverage (UHC)

(実施期間：2017年5月17日)

1. 本研修の概要

WHO（世界保健機関）では、すべての人々が質の高い基礎的保健サービスを負担可能な費用で受けられる、UHCの達成を目指している。ザンビアでは医療費を原則無償化しているが、適切な医療サービスを提供するための保健システムが十分ではない。プロジェクトでは地域の状況や情報に基づいて、限られた保健資源を有効活用するための活動計画の立案から実施、評価、改善を技術的に支援していくことで、サービス提供にかかるマネジメント能力強化モデルの形成を目指している。

日本の公衆衛生の黎明期からの公衆衛生人材の資質向上に向けた取り組みを学び、ザンビアでの人材育成に活用し、地域における保健サービスの提供体制の強化に寄与する能力の養成が今回の研修の目的である。研修の参加者は、ルサカ州保健局1名、南部州保健局1名、カロモ郡保健局・保健センター各1名、チョマ郡保健局・保健センター各1名の合計6名であった。

2. 実施方法

日本の多様な公衆衛生活動を学ぶため、2017年5月17日（水）9時半から12時までの約2時間半、本院における公衆衛生医師養成の経緯、現状と課題の講義、科学館の紹介の他、水道システムの浄水プラントの見学、図書館サービス紹介等を行った。



【集合写真 本院：玄関ロビー】

3. 研修の状況

わが国の公衆衛生医師の養成の実際を学んだ。質問は幅広く、保健医療人材の育成にとどまらず、社会経済システムの成熟度と公衆衛生システムの整備と課題、ならびに研究で得られた知見をどのように保健衛生施策に活用するなど、具体的な質疑応答がなされた。また、施設見学にあたっては、日本の上水処理についての概略について説明を受けたのちに、水道プラントの見学を行うことによって理解を深めることができた。



【講義風景 本院：4-6,7講義室】

【施設見学 本院：浄水プラント、図書館】